

シンポジウム

ヒト, カブトガニ, 干潟

—海はだれのもの?—



日時

9月24日 日 12:50~17:00

場所

北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)1階ガイド館
福岡県北九州市八幡東区東田2-4-1

参加費

無料(但し博物館展示室への入場や駐車場利用は有料となります)

主催/広島大学大学院生物圏科学研究科

共催/北九州市立自然史・歴史博物館、広島大学総合博物館

後援/日本分類学会連合、海の生き物を守る会、日本カブトガニを守る会福岡支部

ヒト、カブトガニ、干潟 —海はだれのもの？

日本には生きた化石カブトガニの生息する素晴らしい干潟がまだ残っています。カブトガニの生息する干潟とはどんな役割があるのか？日本や世界の干潟はどのような現状なのか？

カブトガニは今、人間の保護を必要としています。次世代にこの宝を残すために、まずは彼らのおかれている現状、問題点、保全策について考えてみましょう。

開会の言葉 上田 恭一郎(北九州市立自然史・歴史博物館館長)

12:50-13:00

第1部(日本の干潟、世界の干潟)

司会 大塚 攻(広島大学)

13:00-13:40 未定(環境省)「環境省の取り組み(仮題)」

13:40-14:20 向井 宏(元北海道大学)「日本と世界の干潟の保全」

14:20-14:30 休憩



作画:米谷まり
「かぶめちゃん・かぶあきくん」

第2部(福岡、山口、広島のカブトガニの生息状況)

司会 武石全慈(北九州市立自然史・歴史博物館)

14:30-14:50 清野聡子(九州大学)

「日本のカブトガニの生息地の参加型保全・再生と環境政策の展開」

14:50-15:10 和田年史(兵庫県立大学)

「カブトガニ津屋崎個体群の絶滅危機の現状とそれまでの過程」

15:10-15:30 林 修(日本カブトガニを守る会)「曾根干潟のカブトガニの現状」

15:30-15:35 休憩

15:35-15:55 原田直宏(日本カブトガニを守る会)「山口のカブトガニ」

15:55-16:15 小池 裕子(九州大学総合研究博物館)、西田 伸(宮崎大学教育学部)

「干潟食物連鎖の中でのカブトガニの特徴」

16:15-16:35 大塚 攻(広島大学)「カブトガニ保全の問題点を探る」

総合討論

司会 清水則雄(広島大学)

16:35-17:00 全講演者

問い合わせ先

○シンポジウムの内容に関すること

広島大学 大塚 攻

e-mail ohtsuka@hiroshima-u.ac.jp

tel 0846-22-2362

○会場に関すること

北九州市立自然史・歴史博物館 武石全慈

e-mail takeishi@kmnh.jp

tel 093-681-1011

